

おぞねっ子通信 2020

2020.6.23

「カリキュラムマネジメント」って？

コロナ禍において、授業時数を考えるとなかなか厳しいところがある中、先生方は授業の工夫をしています。その工夫の一つが「教科横断的な学び～カリキュラムマネジメント～」です。

3年生は幼虫を育てアゲハチョウやモンキチョウを卵から美しいチョウまで育てながら昆虫について学習を進めていました。同時期に図工でオリジナルの昆虫を切り紙やデカルコマニーで表現する学習をしています。つまり、理科で学習したことを生かして昆虫の体のつくりを考えながら図工の学習で表現するのです。子どもたちは、体験を通して学びを重ね、経験として次の学びに活かしていくことができます。これこそが生きた学びではないでしょうか。学習が「楽しい」と3年生の子どもたちは話してくれました。そして、切り紙やデカルコマニーは、高学年の算数の「線対称」の学習につながっていきます。



教科と教科をつなぐと学習の予習にも復習にもなります。切り紙で「昆虫」を作成しながら「昆虫だから、足の数は6本にしなきゃ」「あれ、体が頭と腹の部分しか作れなかったから昆虫じゃないな・・・昆虫以外の虫ってなんていうの？」と考えることができれば復習から次への学びへと学びが深まっていることになります。このような子どもたちの「つぶやき」を大切に学びを深めていきたいです。

合わせて「自然のかくし絵」という説明文を国語の学習ですると、色々な「虫」の生き方に出会う・・・。子どもたちの頭の中は「虫」の世界になってしまい、私のように「虫」が苦手なものにとっては苦痛になるかもしれませんが・・・。「虫」みたいに生物の世界には秘密があるのでは？と発想をとばして他の生物を調べることにつながるように導いていければと思います。

一年間で学習することを見通して教科と教科の学びをつなぎ、紡いでいくことが「カリキュラムマネジメント」なのです。